

ISOM Japan NEWS Letter

第17回国際東洋医学会開催さる

2014年11月1・2・3日の3日間、第17回国際東洋医学会学術大会（17thICOM）が台湾台北市の台大醫院国際會議センター（NTUH International Convention Center）にて開催されました。

黄怡超会頭と河永成会頭の指揮の下、一丸となった準備委員の皆さんのご努力により、盛大な会となりました。壮大な太鼓の演奏によって始まった開会式では、この学会を支える多くの方の挨拶があり、その後に、ISOM 最長老であられる顔焜榮先生の業績がスライドで紹介されました。

顔焜榮先生は、今年90歳になられる台湾薬学会の重鎮で、日本での長い研究歴を有されるがゆえに、日本の漢方医学に対する愛情が深く、これまで日本の私たちに対するご援助を惜しまれませんでした。これからはますますお元気でご指導いただけることと思います。



開会式で挨拶する黄怡超会頭と河永成会頭



スライドで紹介される顔焜榮先生の業績

今回の17thICOMは、再びISOM会長になられた中田敬吾先生の下での初めての大会となりました。その中田先生の「開会の挨拶」を紹介します。

中田敬吾会長の開会の挨拶（歓迎の辞）

17th ICOM が台北で盛大に開催されることをISOM 会長として心から喜んでおります。世界の大家の同志と再会し語り合えることは何物にも替え難い私の喜びであります。本大会のために Organizing Committee の皆様方が払われましたご努力を高く評価し、深く感謝の念を捧げます。

世界の伝統医学は現在国際標準化という大きく困難な問題を抱えています。古代中国に起源を發した伝統医学は東アジア各地に伝えられ、そこで根付いてそれぞれその地域に適合し、その国の伝統医学としてそれぞれ独自の発展をしてきています。

その主なものは中国の中医学、韓国の韓医学そして日本の漢方医学であります。これらの伝統医学はそれぞれ



開会の挨拶を述べる中田敬吾先生

に意味のある大切な先祖の残された宝物であります。国際標準化問題の対処を誤ると私たちの大切な伝統医学が葬り去られてしまう恐れがあります。

伝統医学に関しては一国或いは一地域の伝統医学だけで統一するというのはあまりにも無謀なことと言わねばなりません。それぞれの伝統医学はお互いに尊重し認め合い、共存共栄の道を探るべきであります。そのためにもこの ICOM の成功が私たちの受け継いでいる伝統医学の優秀性と意義を世界各国にアピール出来る絶好の機会と考えます。

本大会が大成功を収め、世界の伝統医学の益々の発展に資することが出来るよう強く祈っております。

私は日本人の一人として台湾を訪れた機会に是非申し上げておきたいことがあります。

去る 2011 年 3 月 11 日、日本の東北地方は未曾有の大震災に襲われ、想像を絶する甚大な被害を受け、多くの尊い人命を失いました。あまりの被害の大きさに、復興の道筋も見えず、私たちは困難の坩堝の中にもがいていました。このとき台湾・韓国をはじめとして世界中の国と地域の人々から温かい励ましとご支援の手をさしのべて頂きました。中でも台湾の人々が示して下さったご支援が強く心に残っております。

台湾からは世界のどの国よりも早く、そしてどこよりも多額の義援金を頂きました。前途に希望を持たず、悲嘆に暮れていた私たちは台湾からの迅速で心温まるご支援にどれほど励まされたかわかりません。

台湾から頂きましたご恩を私たちは子々孫々まで伝えたいと思っています。

ISOM 会長として本大会の成功を祈り、又一日本人として東北大震災に支援の手を延べて下さった世界の皆様に感謝して 17th ICOM の歓迎の辞とさせていただきます。

ISOM 会長 中田敬吾

日本からの参加者数は 131 人

| 国籍 | 人数 | 現地登録人数 | 合計 |
|---------|-----|--------|-----|
| 台湾 | 334 | 11 | 345 |
| 日本 | 111 | 20 | 131 |
| 韓国 | 91 | 1 | 92 |
| Austria | 1 | 0 | 1 |
| Germany | 1 | 0 | 1 |
| 米国 | 7 | 0 | 7 |
| Russia | 3 | 0 | 3 |
| 香港 | 3 | 2 | 5 |
| 中国 | 2 | 0 | 2 |
| 合計 | 553 | 34 | 587 |

今回の大会は、日本、台湾、韓国以外に、オーストリア、ドイツ、USA、ロシア、香港、中国など 9 カ国から総計 587 人の参加者がありました（公式発表）。

日本からは 131 人の参加者があり、関連の人数とあわせると 150 人は越えたと思われます。これまでに比して最高の参加人数となりました。

日本の研究者の招待講演も多く、日本関連セッションも 2 つ設けられ、ポスターでも多方面にわたる研究が発表されました。

2 つの日本関連セッションのうち、「伝統医学と文化」では、日本の漢方医学と日本鍼灸の特色が極めて分かりやすい解説が英語で行われ、特に腹診のシミュレーションモデルには多くの

方が実際に手を触れてその感触を確かめておられました。「日本の症例報告」のセッションでは、4 人の演者がそれぞれご自分の得意とされる分野の症例をご発表になり、やはり活発な質疑応答がありました。

日本セッション「伝統医学と文化」

第 3 日（11 月 3 日）の 9:20～11:00 は「伝統医学と文化」というテーマで、主として漢方医学と日本鍼灸の歴史、それに日本独特の診察法である腹診について、その全体像から、必要に応じて細部までを分かりやすく解説しておられました。

このセッションの構成は以下の通りです。

座長：並木隆雄（千葉大学大学院医学研究院・和漢診療学）

矢久保修嗣（日本大学医学部附属板橋病院・東洋医学科）

演者：松岡尚則（公益財団法人研医会、東邦大学医療センター大森病院・東洋医学科）

矢久保修嗣（日本大学医学部医学部附属板橋病院・東洋医学科）

東郷俊宏（東京有明医療大学）

このセッションは、まず並木先生からの漢方医学と文化に関する全体的な説明のあと、松岡先生の日本の漢方医学の歴史の紹介から開始されました。

松岡先生は、膨大な漢方医学の歴史を6世紀から説き起こし、短い時間内でその変遷の様子を解説し、特に江戸時代の「日本化」に力点をおいて、現在の、一元的医療制度下における漢方医学の形成に至る過程をテンポよく話されました。



座長をつとめる並木先生と矢久保先生



漢方医学の歴史を話された松岡先生

続いては腹診に関する講演です。最初に、座長の並木先生が自ら演壇に立って腹診のこれまでの研究を紹介され、次いで同じく座長の矢久保先生が、「漢方医学における腹証の標準化に向けて～腹診シミュレーター腹部モデルの開発」というテーマで、モデル作りの過程を示し、実際に出来たモデルを供覧しました。

腹診シミュレーターにより表現される腹診所見としては、「胸脇苦満」「心下痞鞭」「腹直筋緊張」「腹部動悸」「小腹不仁」「小腹硬満」「振水音」「瘀血圧痛」「明らかに強い腹力」「やや強い腹力」「中間の腹力」「やや弱い腹力」「明らかに弱い腹力」の13項目が紹介され、これらの項目を実際に診断できる教育用シミュレーターの開発に関するさまざまなことが話されました。

講演のあと、開発された腹診シミュレーターモデルの前には多くの人が集まり、実際に自分の手で触ってその感触を確認し、不思議そうな顔をされていたのが印象的でした。



腹診概論を話される並木先生



矢久保先生のシミュレーター開発の話の冒頭



腹診診断モデルを実際に試す聴衆の皆さん

東郷先生は、「日本における鍼灸実技と研究の文化的側面」と題して、古代における大陸からの鍼灸導入から、中世を経て近世に至り、さらには現代へとつながる鍼灸の歴史を分かりやすく解説されました。

江戸期にオランダ商館医を通じてもたらされた西洋医学の知識が蘭方医のみならず石坂宗哲など鍼灸を実践する医師のなかにも蓄積されていたこと、明治期から昭和初期にかけての日本の鍼灸界が、古典に基づく理論体系ではなく、西洋医学の解剖学や生理学の観点から“読み替えられて”いったこと、また一方で医師による鍼灸領域の科学的研究の背景をなしている可能性があることなどを、医史的な観点から指摘されたのが印象的でした。インパクトの強いご発表でした。



講演が終わって質問に答えられる東郷先生

会場内の状況と雰囲気・スナップ写真より

ごった返すレジストレーション

台湾最大の漢方薬メーカー順天堂のブース

顔焜榮先生(右)と中田敬吾先生(左)



ポスターセッションの一風景 1



ポスターセッションの一風景 2



ポスターセッションの一風景 3

以下に、今回の学会場内のスナップ写真を何枚か紹介しておきます。



その他の発表

17thICOM では、もう一つの日本セッション（症例検討）がもたれ、招待講演も数多くありました。それらの関しては次号（ISOM Japan ニュースレター 2014 No.3）でお知らせします

ISOM Japan ニュースレター 2014 No. 2

発行日 2014年11月28日

編集者 ニュースレター編集委員会

発行者 安井廣迪

発行所 株式会社ジーエー企画

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-7

巖松堂ビル10F

Email ga-takahashi@lake.ocn.ne.jp

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>

国際東洋医学会日本支部

ISOM Japan

東京都千代田区神田神保町1-7 巖松堂ビル10F

株式会社ジーエー企画内

TEL. 03-5283-5006

FAX. 03-5283-5416